

福岡市医師会 定例記者会見資料

ご質問と回答		
NO	ご質問	回答
1	・ 5類への見直しについての考え	2.総論 福岡市感染症概況等 …スライド資料の中で お伝え致します。
2	・ 全数把握見直しに続いて政府に希望すること	
3	・ 今シーズンのインフルエンザとコロナ同時流行 について。混乱などの懸念はありますか？	4.質疑応答 …質疑応答にて お伝え致します。
4	・ 今後の感染見通しと注意点があればご教示下さい。	
5	・ オミクロン対応ワクチンの接種について 懸念はありますか？	4.質疑応答 …質疑応答にて お伝え致します。
6	・ 小児の接種についての市医師会の見解	

※ご質問に対する回答は定例記者会見時点での内容です。今後の感染状況等により内容が変更になる場合があります。

令和4年10月5日

# 定例記者会見

令和4年10月5日(水) 13時30分

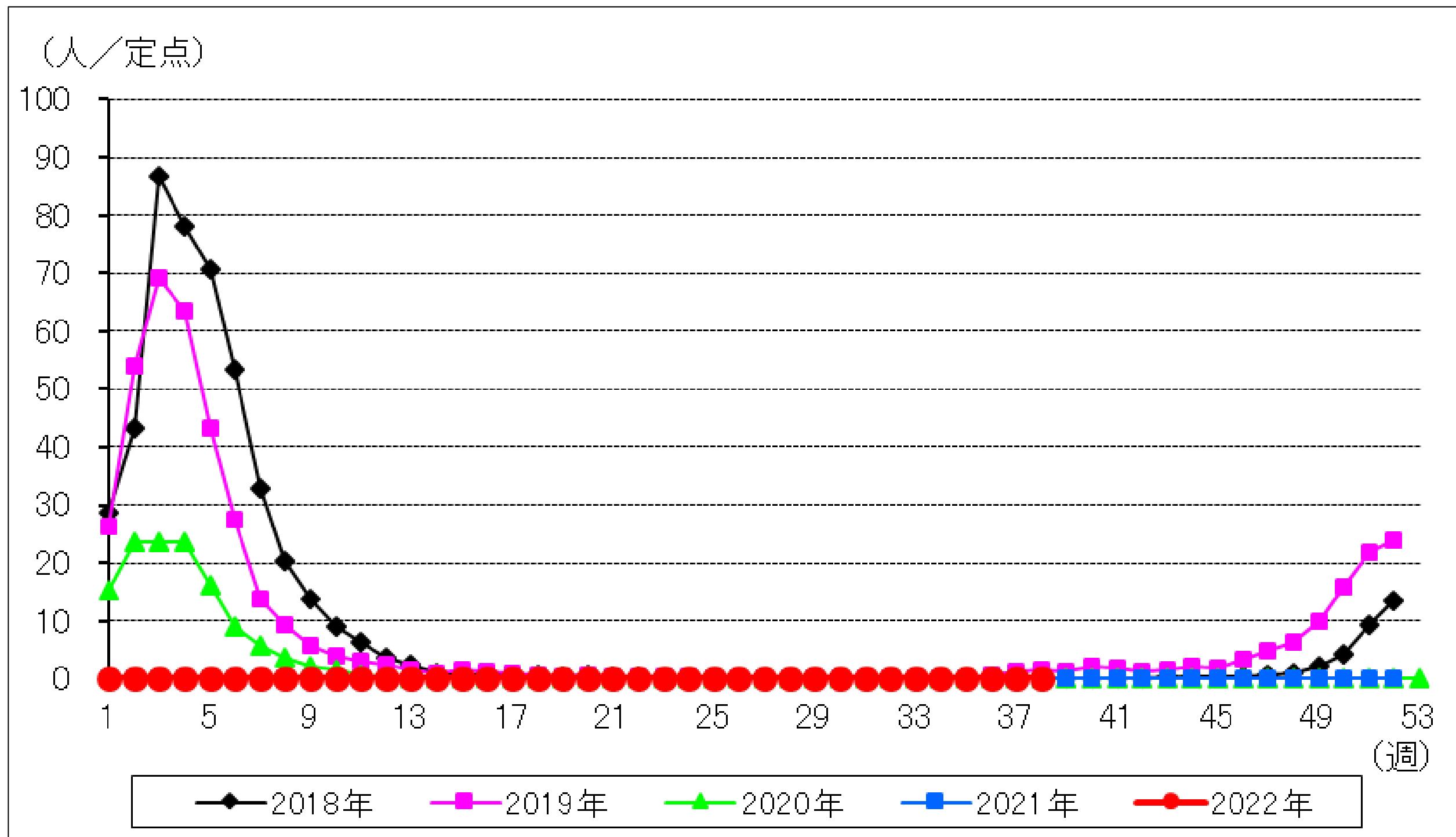
質疑応答



## 1.報道機関からのご質問

- 今シーズンのインフルエンザとコロナ同時流行について。  
混乱などの懸念はありますか？
- 今後の感染見通しと注意点があれば  
ご教示下さい。

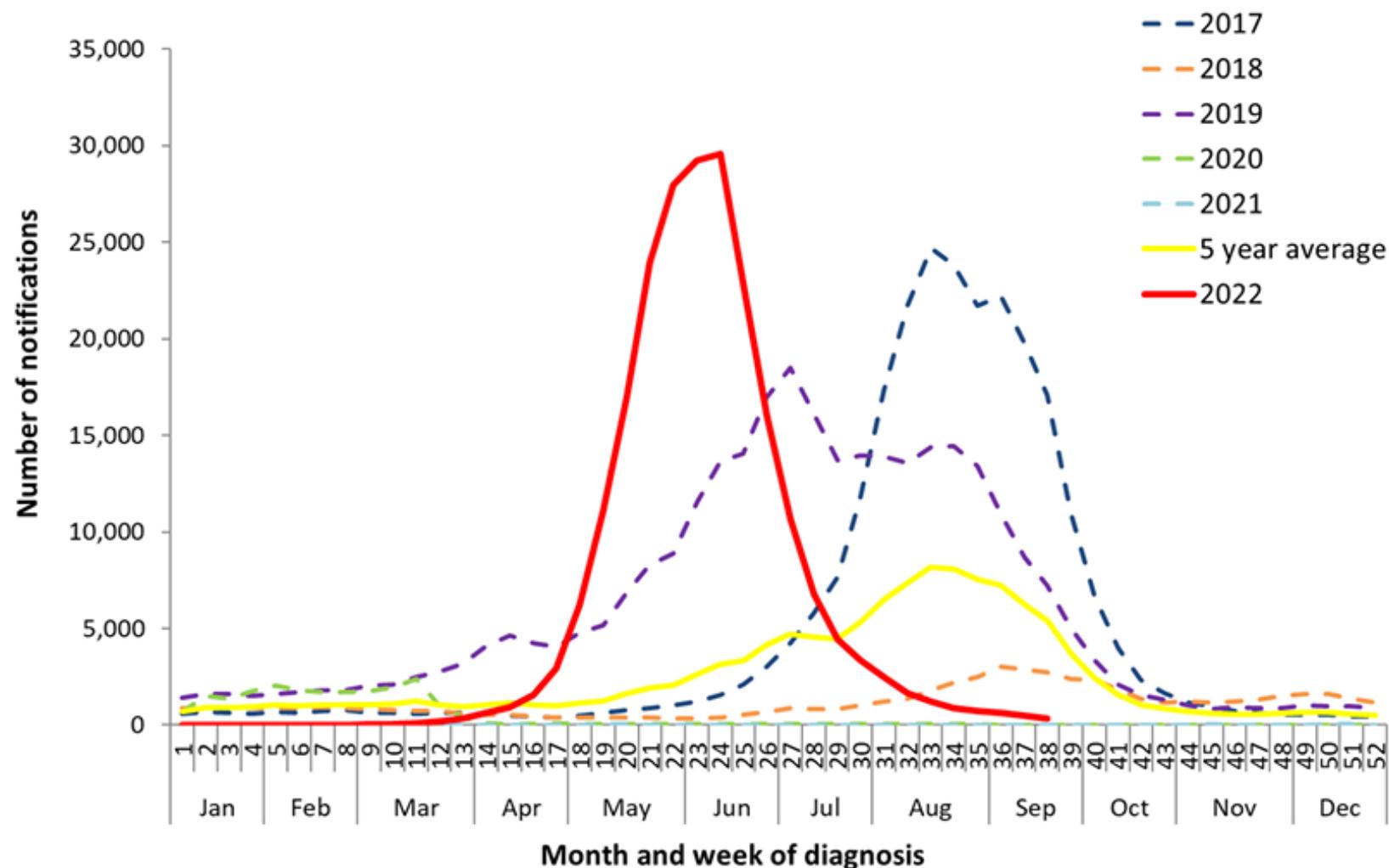
# ○インフルエンザの流行状況（福岡県）



※福岡県感染症情報HPより

# ○インフルエンザの流行状況（オーストラリア）

Figure 4. Notifications of laboratory-confirmed influenza, Australia, 01 January 2017 to 25 September 2022, by month and week of diagnosis\*



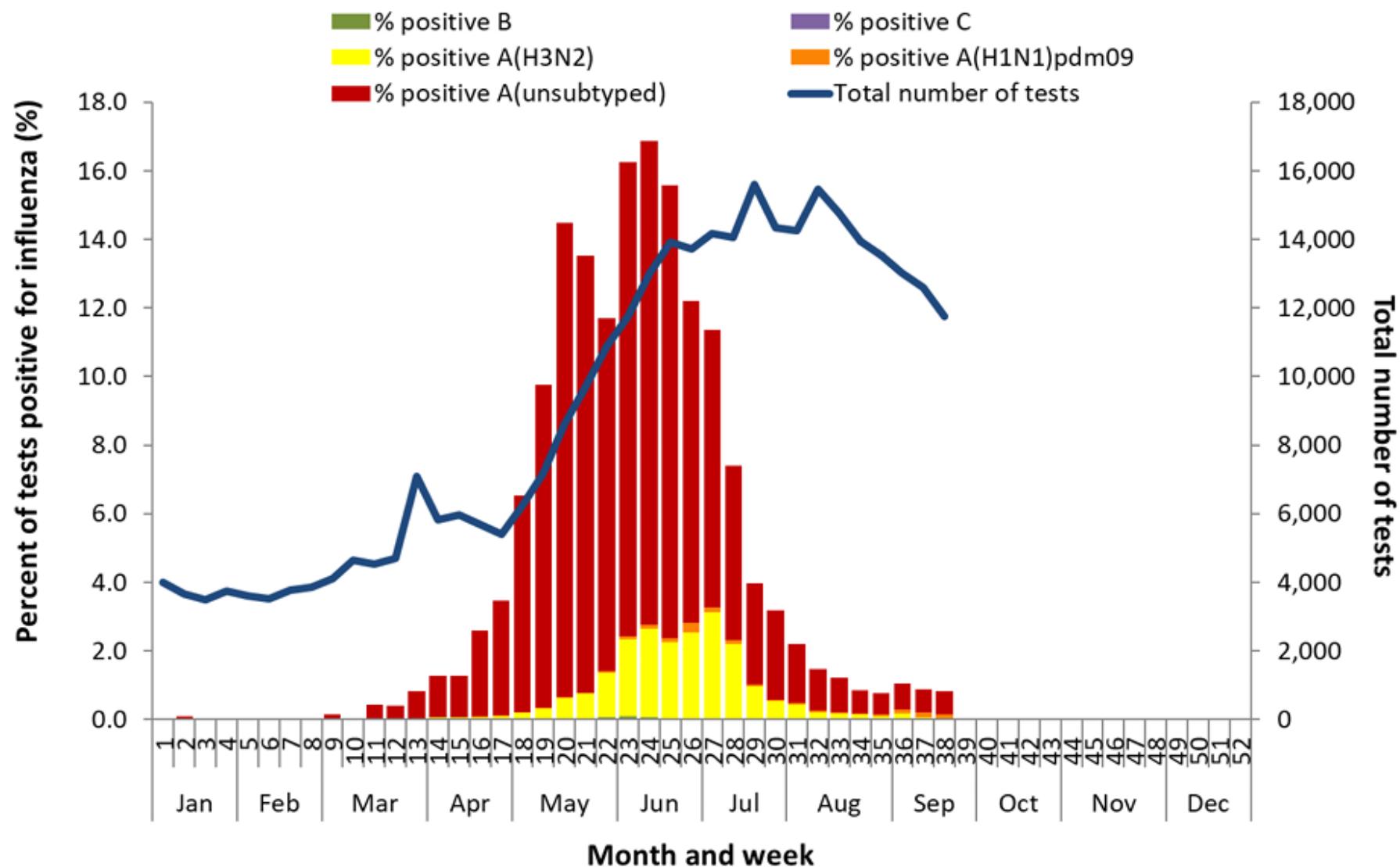
Source: NNDSS

\*NNDSS notification data provided for the current and most recent weeks may be incomplete. All data are preliminary and subject to change as updates are received, with most recent weeks considered particularly subject to revisions. Please refer to Data considerations for interpretation of the 5 year average.

※AUSTRALIAN INFLUENZA SURVEILLANCE REPORT No. 13, 2022 Reporting fortnight: 12 September to 25 September 2022より

# ○インフルエンザの流行状況（オーストラリア）

Figure 5. Proportion of sentinel laboratory tests positive for influenza and total number of specimens tested, 01 January to 25 September 2022, by subtype and week\*



Source: Sentinel laboratories

\*Total number of tests include all specimens that were tested for influenza, including multiplex panels used to test for SARS-CoV-2. Testing methodologies vary across jurisdictions and laboratories. All data are preliminary and subject to change as updates are received, with most recent weeks considered particularly subject to revisions.

※AUSTRALIAN INFLUENZA SURVEILLANCE REPORT No. 13, 2022 Reporting fortnight: 12 September to 25 September 2022より

## ○インフルエンザ対策

1. 2022-2023年シーズンは、インフルエンザの流行の可能性が大きいです
2. A香港型の流行が予想されます
3. 今季もインフルエンザワクチン接種を推奨します
4. ワクチン接種が是非必要な方
5. 例年通りのインフルエンザ対策が必要です

※一般社団法人日本感染症学会 提言 2022-2023年シーズンのインフルエンザ対策について（一般の方々へ）より

## 4. ワクチン接種が是非必要な方

○65歳以上の高齢者の方

○5歳未満のお子さま

○年齢には関係なく

- ・心臓や肺などに慢性の持病のある方
- ・悪性腫瘍で治療中の方
- ・高度の肥満の方

○これらの方と一緒に生活されておられる方、  
学校や職場で人との接触の多い方

## 5. 例年通りのインフルエンザ対策

- 発熱された方は、ワクチン接種歴に関わらず COVID-19とインフルエンザを見分けることが重要
- 両者が合併して重症になる場合もあるため、医療機関の受診が必要
- 高齢者、小さなお子さまなど重症化のリスクのある方は当然治療の対象
- リスクを持たない健康な方でも重症化することがあり、その予測は困難
- 抗ウイルス薬はインフルエンザの重症化、死亡を抑制
- 他の呼吸器感染症と同様に一般的な予防が大切  
手洗い、マスク、咳エチケットを  
普段から心がけることが重要

※一般社団法人日本感染症学会 提言 2022-2023年シーズンの  
インフルエンザ対策について（一般の方々へ）より

## ○今後の感染見通しや注意点等

### 新型コロナウイルス感染症直近の感染状況

…新規感染者数が減少していることに伴い、療養者数も減少、病床使用率も低下傾向。

福岡の新規感染者数は10万人当約331人、今週先週比は0.62。30代以下が中心。病床使用率は約3割。

### 今後の見通し

…今後の感染状況は短期的には減少傾向が継続。

季節性インフルエンザの例年よりも早期の流行と新型コロナウイルス感染症との同時流行が懸念。

令和4年9月21日時点

※国立感染症研究所HP参考に作成

## 2.報道機関からのご質問

- オミクロン対応ワクチンの接種について懸念はありますか？
- 小児の接種についての市医師会の見解

## ○小児の接種について

### <日本小児科学会>

## 5～17 歳のすべての小児に 新型コロナワクチン接種を推奨

### ○要旨

- ・ 小児患者数の急増に伴い重症例と死亡例が増加
- ・ オミクロン株流行以降、小児特有のクルーズ症候群、熱性けいれん増加、脳症、心筋炎などの重症例も報告
- ・ 世界各国からの研究成果が蓄積され、オミクロン株を含めて重症化予防効果が40～80%程度認められることが確認
- ・ 国内の安全性データが集積され、12～17 歳における副反応の発生率は若年成人と同等で、5～11 歳における副反応はより軽い傾向が確認

※日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会

「5～17 歳の小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方」(2022年9月19日)より作成

# ○小児の接種について

## <日本小児科学会>

### 新型コロナワクチン接種の考え方

#### ○要旨

- ・小児をCOVID-19から守るためには、周囲の成人への適切な回数のワクチン接種が重要
- ・COVID-19重症化リスクが高い基礎疾患のある小児に対しては、重症化予防効果の観点から年齢にかかわらずワクチン接種を推奨
- ・5～17歳の健康な小児へのワクチン接種を推奨  
健康な小児へのワクチン接種には、メリットとデメリットを本人と養育者が十分理解することが重要
- ・2回目接種から5か月以上経過した12～17歳の小児に対しては、早期の追加接種(3回目)を推奨

※日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会

「5～17歳の小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方」(2022年9月19日)より作成